

令和4年度第1回いしかわ森林環境基金評価委員会の概要

1. 日 時：令和4年11月17日（木） 13：30～16：40
2. 場 所：石川県立図書館 2階研修室
3. 出席状況：委員9名
4. 議 題：1 現地視察 13:30～
 - (1) 県産材活用事例紹介
 - ①株式会社谷口
(令和2年度いしかわの木づかい表彰県産材利用製品部門受賞)
 - ②HUM&Go#
(令和4年度いしかわの木を活かす民間施設普及拡大事業)
 - (2) 石川県立図書館（県産材活用施設） 館内視察
- 2 評価委員会 15:40～
 - (1) いしかわ森林環境基金事業の令和3年度及び第3期（H29～R3）の取組実績
 - (2) いしかわ森林環境基金事業の令和4年度の取組内容

5. 委員会議事要旨（委員の主な意見等）

(1) いしかわ森林環境基金事業の令和3年度及び第3期（H29～R3）の取組実績

【委員長】 実績を見ると、大体目標は達成したということでしょうか。

【事務局】 おおむね達成している。

【委 員】 市町に移行した森林環境譲与税による整備については目標に達していないのではないかと。

【事務局】 市町に森林整備のノウハウがなかったことから、県でアドバイザーを設置して市町を支援しているところ。目標の300haに向けて、令和元年度29ha、令和2年度161ha、令和3年度231haと着実に整備が進んできているところ。令和3年度の予算の執行状況では、市町は83%、県はほぼ100%を執行している。全国的にみて石川県の執行率は高い。

【委 員】 県内を車で回ると放置竹林、緩衝帯などきれいに整備されたところが見えるようになった。今後も林業関係者として、いろいろ協力していきたい。

【事務局】 森林組合や林業事業者など林業事業者の方々にしっかり事業を進めていただいた。今後ともご協力をお願いしたい。

【委員】 いしかわ森林環境税がしっかり活用されている一方、太陽光発電や風力発電のための森林開発が特に能登地方で進められている。環境破壊とならないよう、どのように調整を図っていくのか。

【事務局】 森林の開発については、われわれ森林部局で開発行為が適正かどうか確認し、開発行為の許可を出している。環境政策については、環境部局のほうで環境アセスなど法に基づいた手続きを踏みながら進めていると思うが、環境部局とも情報を共有しながら適切な開発となるようしっかり監視してまいりたい。

(2) いしかわ森林環境基金事業の令和4年度の取組内容

【委員】 8月にあった豪雨災害で、放置竹林はどの程度崩壊したか。あるいは、放置竹林以外にどんなところを森林整備すればよいかといった新たな課題が浮かんできているか。

【事務局】 竹林が特に崩れているわけではなく、今回の災害を受けて新たに対策を取ることには考えていない。今回の災害では雨量の割に山自体の崩壊地の発生が少なく、水だけが沢を流れて土砂を流したという現場が多い。山がしっかり整備され、下草が生えたところは崩壊が起きにくいことから、放置竹林を良い山に変えていくことは大事だと感じている。

【委員】 雨量の割に山が崩れていないというのは森が立派であるという結果であり、事例として残すとよいのではないか。

【委員】 第4期の放置竹林の除去の目標が550ha、令和4年度が110haと、前回の計画に比べて全体計画で50ha、単年度で10ha減っているが、その理由は。

【事務局】 昨年度の見直しの中で、クマ被害が喫緊の課題であったことから、緩衝帯整備のボリュームを少し増やし、放置竹林の除去は若干計画量を減らしたことによるもの。

【委員】 金沢市は「木質都市」を掲げ、町屋の整備や木材を使った建築物を促進している。多くの観光客も来るため、県産材の利用促進に引き続き取り組んでいただきたい。

【事務局】 民間の建築において県産材の利用が進むよう、今後も努力してまいりたい。

【委員長】 県産材の需要に応えられるような供給体制についても、環境税以外の広い視点で考えていくとよい。

【事務局】 県産材の供給については、現状、需要の3分の1程度しか供給できておら

ず、森林組合等の山側への支援とともに、一番の課題である担い手対策に力を入れ、安定的な供給体制を整備してまいりたい。

【委員】 資料に放置竹林の除去は地区の同意が得られた箇所から順次実施する、とあるが、同意が得られないようなことはあるのか。放置竹林除去のメリットを住民にしっかり伝え、同意を得るようにしていけばどうか。

【事務局】 個人の所有する地面になるため、流域の下のほうの集落で要望があっても、地面の所有者の同意が得られないと手がつけられない。同意が得にくい方にもしっかりと伝え、要望に沿えるよう事業を進めてまいりたい。